



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 318名

令和8年10月号

令和8年10月1日発行



「実りの秋」～学びは次のステージへ～

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 桜町小の子 ～



校長 齊藤 敦史

雨のやまないうす暗い空を見上げながら過ごす毎日に、我々職員は不安を抱く一方、校内では、今週末開催予定の運動会に向けて、さくらっ子の明るく気合いの入った表情と元気いっぱいなかけ声が響いており、子供たちのもつエネルギーが学校を明るく賑やかにしております。

先日、1学期に実施した「全国学力・学習状況調査」及び「埼玉県学力・学習状況調査」の結果が返却されました。今年度、本校では、調査を実施した各学年・各教科において、これまで積み重ねてきた取組の成果が、**確かな形**となって表れました。子供たち一人ひとりが粘り強く学習に取り組んできた結果であり、大変嬉しく思っております。

では、なぜ、このような「実り」を得ることができたのでしょうか。

一つには、昨年度から本格的に取り組んできた「**教科担任制**」があります。教師が専門性を生かして授業を行うことで、より分かりやすく、より深い学びを目指してきました。また、本校では、教師が一方的に「教える」だけの授業から、子供たち自身が「考える」「伝える」「聴く」「学び合う」授業への転換を進めています。「私はこう考えたよ」「なるほど、そういう考え方もあるのか」「ここが分からないから教えて」。そんな声が行き交い、互いの考えをもち寄って、みんなでより良い答えを創り上げていく。こうした日々の授業の積み重ねが、子供たちの「**分かった!**」「**もっと知りたい!**」に繋がっているのではないかと考えております。

さらに、一昨年来取り組んできた**鳩ヶ谷中学校区での小中連携教育**も、着実に根を張り始めています。中学校の先生や生徒との交流、授業体験、小学校同士の交流などを重ねることで、子供たちが中学校をより身近に感じ、安心して次の学びへ向かう土台が育ってきました(研究のテーマは「**心理的安全性の確保**」でした)。また、さくら学級での**体験を大切に**した学習、日本語指導を必要とする子たちへのきめ細かな支援等「**どの子にも分かる喜びを**」「**誰一人取り残さない**」という教職員の願いも、本校の学びを支えています。

そして何より、忘れてはならないのが、**ご家庭や地域の皆様のご支援**です。毎日の宿題・家庭学習への励まし、生活習慣を整えること、地域の中での様々な体験や温かな見守り。その一つひとつが、学校での学びを加速させる大きな原動力となっております。改めて、日頃のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

しかし、今回の結果は**ゴール**ではありません。むしろ、次の学びへ向かうための**現在地**です。できたことに**自信**をもちつつ、できなかったことから目をそらさず「**なぜだろう**」「**もっと知りたい**」「**次はできるようにになりたい**」と新たな一歩を踏み出す。その繰り返しこそが、**真の「学ぶ力」**を育てます。

実りの秋。実った果実から、また新しい種が生まれるように、今回得られた成果を、次なる成長の種にしていまいます。本校職員も、結果に満足することなく授業を見つめ直し、子供たちと共に学び続けます。そして「**学んで楽しい**」から「**もっと学びたい**」へ。そんな思いがあふれる桜町小を、これからも目指していまいます。併せて、今週末は運動会です。当日は、職員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしておりますと共に、さくらっ子皆の活躍を願い、全力で応援していまいます。

ご家庭や地域の皆様におかれましては「学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ さくらっ子」の思いを共有していただき、今後も引き続き手を携え、子供たち一人ひとりのさらなる「**実り**」を共に育んでまいりましょう。